

第6回河北町小学校のあり方検討委員会

2023.10.20 18:00～19:52

進行：学校教育課長

1 開会

2 教育長あいさつ

3 委員長あいさつ

いよいよ答申を返す時期になった。年内、12月中旬に答申を返す予定になっている。前回8月に町民参加型として一般の方を含めた検討会を行ったが、今までの意見を総ざらいし、事務局から章立てしてまとめてもらった。別紙資料にある諮問の2つについて、1については(4)まで、2については(8)までの内容があげられる。これまで出されたものを網羅するような答申を出したいと思う。

ただ、前回8月の検討委員会の内容について、山形新聞が10月6日に記事としたが、初めて見た町民から「え？1校なの？」という声も上がってきている。そのため、町民にとっても興味ある事項だと考える。前回まで、1校案ということで話し合ってきたが、限定していいのか。私は、複数案考え、一番望ましいのは1校、できなければその他の案と膨らみをもった答申案をと考えている。後ほどご意見をいただきたい。義務教育学校は小中学校1つにして1校になり、校長1名、教頭は複数配置となるかもしれない。小中一貫校は小学校は小学校、中学校は中学校、連携しながら6年間と3年間で教育していく。そのどちらがいいのか。正直に言うと義務教育学校は数校できていて、西村山でも朝日町が令和10年度に義務教育学校を立ち上げることを進めている。他の市町でも義務教育学校のほうがより多く検討されている。

それらを前提にして、河北町にとって一番良い学校はどういう学校か、答申に盛り込んでいきたい。令和4年度1年間で生まれた子供が67,8名。令和5年度上半期(4月～9月)で生まれた子供の数は20名台。それも検討材料にしたい。

4 報告・協議(座長：委員長)

(1) 第5回検討委員会の報告(教育主幹)

(2) 協議

流れの確認

- ・章立ての流れに沿って意見を伺う
- ・11月中旬に第7回(最終)の検討委員会を行う
- ・今回の意見のまとめを事前に送付し、第7回に臨んでもらう
- ・12月に答申する

○：委員長 副：副委員長 ●：教育長

○1校かどうかも含めて統合すべきかどうか。すべきだとしたら、統合の時期についての意見をいただきたい。

- ・学童の利用者の保護者からは、できるだけ早くという意見があるが、地域の方の意見となるとお年寄り「学校がなくなるなんて」と怒る。当事者の保護者からは、統合するのであればできるだけ早くという意見が上がってきている。
- ・統合の有無といっても無はない。100パーセント有でいい。いつからかは、子どもの数や複式の出現などはっきりさせたほうがいい。目安は入学する数が100名を切るなど具体的な数字で、適正規模はこれくらいだからと言った方が分かりやすい。

○統合の時期については、これまでの参考資料から児童数の推移などの根拠を示して説明できると思う。

財政については何とも言えないが、朝日町は昨年度答申を出して令和10年開校予定としている。そのため、準備も含めて最短で6年は必要かと思う。

・財政など考えずに答申を出していいのではないか。行政がそれでできるかどうかである。

●第一は子どもにとってよりよい教育環境、財政は二の次ということ町長とも話し合っている。

○(2)の②学級数、友人関係の固定化の不安、学級替えの必要性については多くの意見をいただいた。学級替えの必要性を考えると限りなく1校統合案に近づく。そこでまとめていくのはどうか。

- ・学級替えのタイミングで不登校だった子が行けるようになった例もある。環境の変化も必要ではないか。

○2の(2)新設か現校舎利用かについてはどうか。

- ・資料2の中に今後の入学数があり、ここからおのずと決まると思う。活用できれば現校舎利用し、人数が多ければ現校舎を利用できないと決まると思う。

○現校舎の利用について考える理由は、既存の学校を利用すると吸収合併ではないかという意識が出てしまう可能性があるから。また、1校統合して各学年4～5学級になり、将来的には3学級の見通しである。今ある一番大きな学校の谷地中部小が3学級で使えるかということ。

●参考資料の令和5年度に1校になった場合の1年生から6年生の人数と学級数では、全校児童で700名ほど。それが入学年度ということで、令和6年度から令和11年度までであるが、これは5年後の1校の形態。令和10年は1校にすると大体3学級ずつの学校になる。谷地中部小は1学年2学級の設定で

作られていて、3 学級の学年が出現した際に特別教室を変更して使っている。そのため、このまま谷地中部小を使うことはできず、無理して使うとしたら増築の必要がある。谷地南部小も 2 学級のつくり。

- いろいろなことを考えれば増築して対応する手段もあると思う。子どもたちのことを一番に考えるのは大切だが、河北町も人口が減ってきているので財政面でも大変だと思う。
- 2の(1)で、1校にするとしたときに既存の校舎利用だと吸収合併だという声がありそうだが、河北中学校を一貫校としてすべての学校を集めるとすると、吸収されたという意識が少ないのではないか。

河北中校長：河北中学校は創設 45 周年。10 年前に大規模改修を行った。今後 45 年以上経っている学校を改築して利用することは、耐震などの問題もあり難しいと思う。また、小中一貫校か義務教育学校かによっても話は変わってくる。

- 小中一貫校にするか義務教育学校にするかについて。義務教育学校になれば 1 つの学校になるため、職員室が 1 つになる。校長は 1 名、教頭は複数名。6・3 制ではなく、4・3・2 のような区切りが新たにできるというメリットはある。しかし、校舎は 1 つでなければならない。どちらがいいか意見があればお願いしたい。
- 私たちでは、小中一貫校がいいのか義務教育学校がいいのかは分からないから、決められない。
- 村山地区にはないが、東根市に中高一貫校の東桜学館がある。中学校 3 年、高校 3 年の 6 年間の学校である。河北町からも通っている子がいるが、町の学校が義務教育学校となると、小中で 9 年間となり、中高一貫の学校とは 3 年間の重なりが出てしまう。義務教育学校の場合は前期後期という区切りがあり、そこで選択は可能と言えれば可能であるが、非常に近いところに義務教育学校と中高一貫校があると、いろんなところで課題が生じてくると考えられる。そこも加えて検討が必要だと思う。
- ここでは、どちらの学校がいいかの結論は出しようがない。

○その他、1 と 2 どちらの意見でも構わない。

- 第 1 回からの検討をしてきたが、統合はこれからの子どもたちの人数を考えると仕方ないと思うが、本当の当事者は子どもたちなので、今の大きい学校、小さい学校の現状も多少差があると思う。河北町はつながりが深い地域なので、保護者が 1 つになっても問題ないと思うが、子どもたちが中心の学校に吸収となるのは納得いかない。大きい学校も小さい学校も、別のところで 1 からのスタートにしたほうが公平である。

- ・小学校の校舎を 2 次利用することも考えられるが、中学校の近くに新校舎を建てることで、谷地高も近くにあり、小・中・高が一体となった学びのスペースとして認識されれば、他地区の方の抵抗感は減るのではないかと思う。
 - どちらの学校になるにせよ、新たな学校をとという意見があった。場所の問題もある。今の中学校の敷地では無理だろうか。
 - ・場所がない。中央公園を利用するしかなくなる。
 - ・冒頭に委員長から、1 校案だけでなく複数案もあった方がいいのではないかとあったが、また方向性がぶれてはいけないと思う。これまで 4 回検討してきてはっきりさせた通り、1 校案でお願いしたい。時期は、あまり長くなく、早すぎてもいけないので、5, 6 年はかけるべき。お金の面で問題なければ新設で。1 校案から元に戻る議論はなしでお願いしたい。
 - 新聞で 1 校案について初めて見た人が、後から「それはない」と思わないようにと思って発言した。今日、委員の皆さんの思いを確認できたので、1 校案を答申に強く出していきたい。
- 西里小校長：これまで様々な場で話題にしてきた。各地区の懇談会や第 5 回の町民参加型の検討会参加者が少なかったことについて話すと、何名かの方から「賛成だから行かないのだ。もう少し自信をもって進めてくれていい。」と言われた。河北中の老朽化についての意見ももらった。建て替えを考えているのかという質問があった。
- 中学校についての諮問はなかったが、その点についてはどうか。
 - 河北中は 45 歳。訪問するたび、いたるところに老朽化が激しく見られる。資料 2 (3) 校舎の機能として、防災拠点・避難所になっており、体育館を避難所とするわけだが、今年のような暑い夏はスポットクーラーを県の補助で入れる予定。冬は体育館には暖房がないので、防災拠点としての機能を考えるべきだという意見も出ている。また、ここ 3 年間を目途に部活動地域移行するために、町の中心地としての場所の提供も考えられる。さらに、給食センターも老朽化しているため、抱き合わせて考える必要がある。それらを総合すると、河北中の建て替えも視野に入れるべきとの意見も町内から出ている。そのため、河北中の敷地内に小中合わせた学校をというのも重要な意見であると思う。
 - ・このような話が進んでくると、小中一貫か義務教育学校かが決まらなないと建物についても決まらなれないのではないか。委員長や教育長はどちらがいいのか、考えを聞かせてほしい。
 - 個人的には、河北町では義務教育学校はまだ早いのではないかと思う。1 つの学校にするには人数的にも波がありすぎる。他の地域で義務教育学校にと進めているところは、小規模か中規模で、絶対に 1 つにできる学校が義務教育学

校を選択している。そのため、せめて小中は独立させておき、一貫教育が可能な範囲で、一緒の敷地にできればと思う。

●決定的なことは言えないが、小学校が6つあり中学校は1つある。場所はそれぞれ違うが、小中一貫教育は特に意識して教育している。小中一貫校でも同一敷地内にある所とそうでない所がある。西川町では、別敷地で西川学園構想としている。同一敷地内はこの辺りにはない。いずれにせよ、中1プロブレムを防ぐ取り組みは必要である。

・吸収合併される形でないほうが良いという意見もあるが、建物がもったいないという気持ちもある。しかし、やはり答申としては新しい学校を建てるということだろう。

・谷地中部小を増築すれば対応可能だが、吸収されたという意識は必ず出る。1校で他の場所にした方がよい。具体的に場所の話が出ると、まず議会が問題にするはず。そのため、答申には具体的な場所は盛り込まない方がよい。変な噂が立つことは避けるべき。

先ほど話題になったが、検討委員会と教育委員会は信頼されているというのは本当だと思う。教育委員会は自信をもってこの問題に対処してほしい。

○新校舎を建設した場合、現校舎をどうするかを話し合いたい。2(4)③地域コミュニティの拠点。建てたばかりの学校がもったいないのではないかという意見があるが。

・率直に言ってもったいない。河北町の収入は考えなくていいのかもしれないが、だんだんと大変になってくると思うので。

○私見であるが、もったいないから活用したい。学校がなくなると地域が廃れるという意見があった。そこで、一つの方策として、今あるそれぞれの学校を地域のコミュニティセンターにするのはどうか。例えばシニアの居場所、地域の図書館、地域おこし協力隊の配置など、町が考えてくれればよいのではないか。

西里小学校長：今ある学校が学童になると、放課後子どもが帰ってきて寂しくないとという保護者の声を聞いた。

・学童の指導員にも検討委員会で統合の話が出ていることを話している。25年経っている施設を修繕して愛着を持って使ってきたが、働く人の生活もあるため既存の学童を使いたい思いはある。しかし、安全面を考えると学校の体育館を使わせてもらっていると安心。学童の中だと狭くて危険がないか常に注意しているが、学校を使えば本当に安心。小学校をそのまま使わせてもらえれば助かる。

・小学生は放課後の使い方も大切。昔は暗くなるまで集団で遊んだ。今は外でみんな遊ぶことが少なくなった。学童をどうするかは統合の問題と同じくら

いきちんと考えるべき課題。大切に考えてほしい。もったきちんとした取り組みを学童に対してすべきではないか。

○例えば、山形市のように学校の空き教室に学童を入れることを参考にすれば、学童を新しい学校の敷地内に作ることも検討できる。その場合、帰りはスクールバスになるのかと思うが。それとも、地区に戻って学童に行く方がいいのか。2通り考えられる。

・10月10日に担当課と学童の施設長が集まり定例会を行った。理想を言えば新しい学校の敷地に新しい学童を建ててみんなでまとまって子どもたちを見ていくのがいいが、実際は溝延の学童以外は各自で借金をして建てた持ち物である。新しい学童になるのは子どもたちにとって一番公平だと思うが、それぞれの既存の学童や職員の将来のことがある。しかし、子どもたちや地域のことを考えれば地域に帰り地域で遊べるのが一番いいこと。

ただ、今、学童の利用の需要が高まっている。需要と供給が合っておらず、増所したいが統合のこともあるので、答えが出せないと話しているところ。学校が1つになれば学童をどう割り振るかという問題もある。理想としては、学校を使わせてもらい、既存の建屋は町で買い取ってもらって公民館にするなどしてもらいたいと思う。

○児童数は減っても学童に対する要望は増えているということもあるので、しっかりと踏まえて学童の位置づけをしていかなければならない。また、地域活性化を考えた時に、仮に1つの学校を新築したとしても今ある学校を使うことは可能であるという方向性を示していくことも大切だと思った。

・統合を考えた時に小学校が何校か空くわけだが、南部地区は3年前に水害があり、避難場所がないと町内で署名運動をして必要性を訴えた。あれから3年近くになるが、町から何の返答もない。そのため、町からの返答もなく会議を開いても意味がないので3回目以降の会議はしていない。南部地区は大きく、21の町内会があるが避難所がないので要望したい。学童の場所は大きいので、半分利用してもらって半分避難所でも充分間に合うと思う。何年後になるかは分からないが、その方向で検討を進めてもらいたい。

○給食センターについて、今はセンター方式で運営している。ご飯は山形から運ばれてきて、副食はセンターで作っている。場所は旧谷地西部小の跡地だが、こちらも老朽化が進んでいる。今後、子どもたちにどのようなかたちの給食を提供していくのが一番望ましいのか。方向性としては、新設するのか、自校炊飯として新校舎に炊飯する場所を作るのか。

・安心して食べられるようでない。画鋲が入るなど危険なことがないように。

○1校であれば、当然、給食センターは近くにあったほうがいい。そうすると自

校炊飯が検討される。

谷地南部小校長：自校炊飯はおいしいが、県全体で民間委託も進んでいる。個人的な意見はなかなか出せない。11月7日に遊佐小を視察に行く。新しい5校を統合してできた小学校。それまでの小小連携のあり方を研修しに行くが、学童や給食センターについても参考に聞いてきたい。

○できるだけおいしい給食を提供できるかどうかであり、それがセンターかどうかということ。

○その他、答申に盛り込むべきと思われることはないか。

・子どもが少なくなっていることで、伝統行事が中止になっていることがある。どんが祭りは子どもが参加しているが、1校統合した時の地域の祭りへのかかわり方をどうしていくべきかということを考えたい。

○西川町の事例であるが、岩根沢の太々神楽は西川中学校の総合的な学習の時間に取り入れることで、地区以外の子も含めた希望者で伝承している。1つの学校になっても学校の活動の中に取り入れて伝承していくという工夫ができると思う。朝日町の例では、かつての和合小学校での和合太鼓を地域の方が地域で30年以上伝承している。地域と学校が協力し、手分けして継続している。河北町ではどうだろうか。

谷地南部小学校長：囃子屋台は学校というよりも地域の方が練習を行って伝承している。学校が統合になっても、地域で練習を進められれば問題ないかと思う。また、谷地西部小ではかつて、やぶこ相撲は学校主導だった。それを地域の人に関わってもらうことで続けている。

谷地西部小学校長：言葉は悪いが、以前は、祭りの練習のために子どもを使っているという状態だった。昨年と今年は地域の方に伝統芸能の由来など説明して関わってもらったことで、これまで嫌々参加していた子どもたちが進んでやるように変わった。その熱意や訳が分かると子どもたちはやりたくなる。今年は相撲を披露していただき、お話も聞いた。相撲をやっていた地区の子どももやりたいという想いが広がったのは、地域の方のおかげだと思う。

・どんが祭りも中学生が入ってくれて、地域との交流があってよかった。これからも中心地区だけでなく町全体が一緒になって祭りを継続してくれればいいと思う。

・残念ながら地区で屋台を出さなかったが、来年の地区から「来年は一緒に」と

誘ってもらった。他地区でもどの地区かは関係なく笛や太鼓に参加しているという実情のようで、谷地のお祭りというよりもみんなのお祭りと子どもたちが感じてくれているようだ。今年はお店がたくさん出て、子どもたちも本当に楽しんでいて嬉しかった。

既存校舎の利活用についての話に戻るが、先日展示会に行った時に、気候変動もあり有機 EL で野菜を育てることを旧校舎で行っている様子を見た。旧校舎を使わないのは悲しい。学童も一つの案だが、スペースが余ってしまうと思う。そこで、余った場を新産業として活用し、雇用を増やして町の活性化につなげるというのはどうか。ぜひ商工観光課と連携して校舎の活用を考えてもらいたい。

○地区の祭りが河北町の祭りとなるように伝え広めていくことが大切。新庄祭りのように。

また、校舎の利活用については、先進事例の長井小、山形一小のように、地域おこしとして、産業と一体となって検討してもらうように答申に入れていく。

○(5)教育課題に対する対応について、特別な支援を必要とする子どもたち、不登校の子どもたちの居場所となるところも校舎とは別に作るべきだろうと。フリースクール、適応指導教室などあるが、これまでの意見の中にそのような不安を抱えている方の意見もあった。これらへの対応も答申に盛り込むべきと考えるがどうか。作るということではなく、環境づくりのために町として努力してもらいたいということ。異論はないと思うので盛り込むということでもいいか。

副：子どもたちのよりよい教育環境とは教育課題の解決である。学校にいと機能的ではあるが、ほっとする場所がない。余裕がない。中学校は、更衣室もないし、LGBTQ に対応したトイレや障がい者のためのエレベーターもない。スロープさえない場所もある。どんな学校を作るか提案することで、多様な子どもたちに対応できる学校ができるのだと思われればいい。学校の中にも、子どもがいつ来てもいいスペースがあるとなおいいし、教員のための休憩スペースもあるといい。

また、以前研修で、地域のコミュニティーセンターが敷地内にある学校を視察した。地域コーディネーターは学校担当者と常に情報交換をしていた。地域に開かれた学校づくりということで参考になるのではないか。

○まだ発言がない方、意見をお願いしたい。

- ・1校を新しく建てて心機一転。建てる場所など課題はあるがそれがいい。
- ・できるだけ早く1校新設するのがいい。8月の検討会での意見にもあった。出生数もあるのですぐにした方がいい。旧校舎を学童にすることはすごくいい

案。寂しい気持ちはよくわかるので、子どもたちの場として提供するのほとても素晴らしい意見だと思った。

- ・子どもの数をどうやって増やしていくかも課題にした方がいい。商業施設を建てて人が集まるようにするとか。

○教育の特色をどうするか。どこに力を入れていくかの要望があれば。

- ・学校運営協議会にも携わっていて、ふるさと教育に力を入れていると聞いている。昔、近所のお兄ちゃんが近くを歩いて町を紹介してくれたが、今はそのような機会もなくなったのではと思う。自分の足で歩いて自分で発見する体験は貴重である。都会に行ってもふるさとに戻って暮らしたいという気持ちを育んでほしい。ふるさと教育は重要だと思う。

・例えば1校になったときに、小学校という名前を使わずに、統合することはできるのか。

○義務教育学校は「〇〇学園」という名前をつけている例はいくつかある。

●公募という方法もあるので、これから検討できる。

- ・岩手県奥州市水沢の例、校舎や校名、校歌を一新した学校。ぜひその方向で検討してほしい。

○今日の検討会で、1校に統合するという考えをしっかりと確認することができた。今日の話し合いを答申文の原案としてまとめ、委員の皆さんに事前にお見せして、次回の検討会で最終答申にまとめ、修正を加えて12月に教育長に答申する。このような流れにしたい。

5 その他

今後のスケジュール

- ・当初は11月10日の予定だったが11月22日（水）に変更を提案
→次回11月22日（水）に決定
- ・1週間前をめどに資料と案内を送付する

6 閉会